



お元気ですか!

志村 たかよし です

第621号 2012年12月16日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
電話 3546-5563
FAX 3546-9570

「少人数学級の実現と教育予算の拡充を求める意見書」

全会派一致で採択

小・中学校全学年での三十五人以下学級の実施を

社会の多様化や経済格差が広がる中、学校現場が抱える課題も加速度的に増加し、子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな教育の実践が強く求められています。

また、「いじめ」「不登校」など、教育現場の様々な課題に対応していくためにも、国際水準並みの「少人数学級」を実現する必要があります。

左の写真は、豊海小学校の授業



先生の目の前まで机が並ぶ教室＝豊海小

風景（05年撮影）ですが、40人近くのクラスは、窮屈そうでした。

日本はOECD諸国の平均水準と比べても1学級あたりの子どもの数が多いのが現状です。

2012年度の学校基本調査では、30人を超える学級で学ぶ小学生は全体の約5割、中学生は8割を超えています。

どの子にもゆきとどいた教育を保障することは国民の願いです。

そのための条件整備として、多くの保護者、教育関係者、都民が少人数学級の実施を求め、その運動も大きく広がっています。

日本PTA全国協議会や全国連合小学校長会、全日本中学校長会などからも少人数学級の実施を求める声が上がっています。

日本共産党区議団はこれまでも、小・中学校の学級を1クラス30人以下にするよう求めてきましたが、

第4回定例会の最終日となる12月4日に「少人数学級実施の実現と教育予算の拡充を求める意見書」が採択されました。

この「意見書」は、日本共産党区議団が提出した「意見書案」を修正したのですが、全会派一致の賛成がえられました。

「意見書」は、
一、十二年ぶりの教職員定数改善計画を策定し、小・中学校の全学年で三十五人以下学級を実現すること。

二、少人数学級の導入に伴う施設整備について、必要な財政措置を行うこと。
を、国と政府に要請しています。

今回は全会派が一致できるために「35人以下」学級でしたが、党区議団は「30人以下」学級実現への第一歩と位置づけ、これからの教育環境の改善を図るため力を尽くします。

臨海都民連が第23回総会を開催

12月9日、臨海部開発問題を考
える都民連絡会（臨海都民連）の



上は、総会で開会挨拶をする
中野幸則代表世話人。左は、
記念講演をする和食昭夫氏。



第23回定期総会が豊洲文化センター
で開催されました。

私（志村）が事務局長をしてい
る「臨海部問題・中央区の会」も
都民連に参加していますので、田
辺七郎会長とともに出席しました。
来賓として日本共産党の畔上三
和子都議が挨拶しました。

また、「国公法弾圧事件」をた
たかい、最高裁で無実を確定させ
た堀越明男さんが勝利の報告とお
礼の挨拶をしました。

石原氏が都政を投げ捨てた後の
総会となりましたが、報告では、



日本共産党都議団を代表し
て、来賓の挨拶をする畔上
三和子都議（江東区選出）。



「臨海部問題・中央区の会」
前事務局長の堀越明男さん
から無罪確定の報告と挨拶。

石原都政と臨海部との関わりが別
枠の様に総括され、「何としても
都知事選で明るい展望を切り開き、
臨海部も環境・防災対策を強化し
ながら、無駄な大規模開発はやめ
させ、『人にやさしい東京』の実

「石原都政と臨海部」についての報告部分

石原氏は四期目半ばで都知事の
座を投げ捨てましたが、13年余の
間、都民生活を軽視し続け、臨海
部を巻き込みながら首都大改造・
大規模開発にひた走ってきました。

石原前都知事が首都大改造のた
めの牽引車リーディング・エリ
アとして位置つけた東京臨海部。
ここでの二大戦略は、①臨海地

現に貢献したい」との決意が示さ
れました。

記念講演として、新日本スポー
ツ連盟理事長の和食昭夫氏より
「2020年オリンピック招致を
考える」と題した記念講演が行わ
れ「そもそもオリンピックとは」
「石原都政のもとですすめてきた
2020年オリンピック東京招致
活動と招致計画はオリンピック開
催都市にふさわしくない」などを
テーマとしたスポーツ関係者なら
ではの興味深いお話がありました。

域全体の大规模開発推進、②コン
テナ貨物中心の「物流機能」強化
となっています。そしてこの二つ
の戦略課題を結びつけているのが
大型道路建設といえます。

こうした都政では、多くの都民・
住民、労働者は大規模災害の不安、
環境破壊や税負担増などの犠牲を
強いられるだけです。

「意見、要望など、お気軽に」連絡ください(03-6366-9906)